奉祝

佐太神社式年御造營第二期工事舞殿改修工事完工

佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念

佐太神社崇敬会だより

神在の社

（かみありのやしろ）

佐太神社崇敬会

令和４年９月発行

第六号

特集：「佐陀大社略記」に見る
江戸時代後期の佐太神社

佐太神社崇敬会だより　神在の社　第六号

令和四年九月発行

特集「佐陀大社略記」に見る江戸時代後期の佐太神社

毎年発行　編集発行　佐太神社崇敬会
島根県松江市鹿島町佐陀宮内七三
写真撮影　阿礼／デザイン編集　坂本洋子

佐太神社崇敬会へご入会ください

導きの神佐太大神（猿田毘古大神）をはじめ十二柱の神々、
この御社に集う八百万の神々からの広大無辺なる御神徳を授かりましょう

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三社をはじめ数々の文化財、社宝、美術品等を未永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、大神様の広大無辺なる御神徳のもと、人々の平安と繁栄を願うものであります。佐太大神をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの幸福、ご縁がいただかれますようご入会のご案内を申し上げます。尚、崇敬会の活動に対するご寄付金も受付けております。既にご入会の方もご親戚、ご友人などでいただきたくご紹介いただきますようお願い申し上げます。

年会費

◆準会員	三千円
◆会員	五千円
◆正会員	壱萬円
◆法人会員	参萬円

待遇

◆参拝時に御垣根にて拝礼が出来ます
◆祭事催しのご案内をいたします
◆崇敬者大祭にご招待いたします
◆毎年神札を授与いたします
◆会員章を授与いたします

ご入会方法は佐太神社社務所へお問い合わせください。ホームページからもお申し込み頂けます。

崇敬会ご入会

式年御造營 第二期工事 第二期工事に伴う御奉賛のお願い

氏子・崇敬者の皆様方のご支援、ご高庇を賜り平成の大修復事業として平成二十五年より御本殿三殿をはじめ諸施設の修復を行い平成二十八年九月二十三日に無事正遷座祭を斎行申し上げました。ひとえに皆様方の深甚なるご信仰の表れと厚く感謝申し上げます。引き続き神域の荒廃した部分を修復して愈々ご神徳の宣揚に奉仕すべく第二期工事として「防災施設整備工事」や「社務所増設工事」などの事業、また「鎮守の森保全事業」を計画しております。誠に恐縮に存じますが、皆様方の御懇情を賜り、ご神徳に報いることができますよう宜しくお願い致します。

ホームページからもお申し込み頂けます。

第二期工事に伴う御奉賛

佐太神社崇敬会
佐太神社社務所
〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内 73
TEL・FAX （0852）82-0668
info@sadajinjya.jp
http://sadajinjya.jp/

ご挨拶

佐太神社崇敬会 会長　宇藤 志郎

拝啓　時下益々御清祥の段大慶に存じます。

佐太神社及び佐太神社崇敬会の儀に関しましては平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

扨　神社本庁より朝山哲氏が佐太神社宮司に令和四年三月一日を以て発令になりました。

元来神社の御隆昌は宮司の活動に俟つところ多大と存じますので今後とも新宮司に対して倍旧のご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。尚、宮司就任の記念として当社崇敬会より装束（正服）を贈呈いたしましたので併せてご報告致します。

コロナ禍により各地で様々な祭事・神賑が縮小・中止されてきました。当社におきましても昨年度には当社舞殿修復工事竣工記念・佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業として第三回『神座』～神々への舞～を計画しておりましたが延期、改めて今年十月二日に実施することになりました。宮崎県の高千穂神楽・出雲市の大土地神楽・隠岐の久見神楽を招聘し「各地に伝わる御神体出現の舞」と題して演舞奉納頂く予定ですので、ぜひご参詣の上ご覧ください。

また、引き続き式年御造営第二期工事を進めておりますが、懸案でありました防災施設整備事業も文化庁補助事業として今年度実施することとなりました。工事によりご参拝の皆様方にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解の程宜しくお願い致します。

就任のご挨拶

佐太神社 宮司　朝山 哲

先ずは聖壽の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者各位の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

この度、前宮司朝山芳圀の後を継ぎ、佐太神社宮司代務者としてご奉仕してまいりましたが、令和四年三月一日付をもちまして神社本庁より佐太神社宮司の大任を拝命いたしました朝山哲と申します。

素より浅学菲才の身にして、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。つきましては微力ながら歴代宮司の功績をしっかりと引継ぎ御神徳の宣揚と地域の発展に誠心誠意努力致す所存でございます。崇敬各位には何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、全国で猛威を振るい続けています新型コロナ感染症の蔓延が始まって以来、間もなく二年と余りを経過しようとしておりますが、皆様方にはお大事無きことと存じます。その影響で昨年の例祭をはじめ恒例の祭事は、皆様に広くご案内をできませず、申し訳なく存じます。その中でも平成二十八年には御本殿の修復、ご遷宮を終えた後、昨年には皆様のご尽力によりご造営第二期工事の舞殿の修復が完工した中での御座替祭、さらには例祭を皆様とともに迎えることができず誠に残念に思います。しかしながら、本年秋には当社の重儀である御座替神事において舞われる古式に伝承された佐陀神能においては、昨年延期になりました佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念の第三回神座を行うことと相成りました。今年の秋こそコロナが収まり、皆様とともに大神様のご深慮を畏み盛大に奉祝行事を迎えることができればと願っております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、今後とも引き続き変わらぬ御奉賛を宜しくお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

お知らせ

新任神職紹介

佐太神社 権禰宜
朝山 裕太郎

昨年十一月より権禰宜として奉仕させていただき七ヶ月が経ちましたが日々学ぶことが多く、自分の未熟さを実感しております。

誠心誠意奉仕して参りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。

特集

『佐陀大社略記』に見る江戸時代後期の佐太神社

松江市立鹿島歴史民俗資料館　丹羽野 輝子

佐太神社 平成28年正遷座祭斎行　「平成の大修復」を終えた頃の御本殿

『佐陀大社略記』は、名前のとおり佐太神社の縁起等を示す本で、文政八（一八二五）年頃に刊行された版本である。

序に「文政八乙酉のとし二月朔の日 遊絲翁」として、この本を著したいきさつが書かれる。

本文は、本社末社の社殿と祭神、神社の縁起と歴史、周辺の神社関連地の解説（三笠山の葉木のひと本、身澄池、勝間神社の下り松、佐陀浦、神目山、月見岡）、主な祭祀（正月歳始祭、四月祭祀、六月名越祭、八月新嘗会、御座替祭、九月里御供祭、十月神在祭と龍蛇、十二月田植神事）、宝物が順に記される。さらに、挿絵五図（見開き三図、半面二図）が合間にはいる。画題は、佐太神社周辺の俯瞰図、「下り松」と「身澄池」、四月祭祀の行列、御座替祭の七座神事、神在祭の神送りの行列である。絵師が誰かは分からないが、佐太神社の事をよく知っている人物が描いたものと思われる。序と本文、挿絵を合わせて四十三ページになる。

現在、『佐陀大社略記』は島根県立図書館（旧蔵曽田文庫）、愛知県の西尾市岩瀬文庫、佐太神社の幣主祝であった宮川家が所蔵している。島根県立図書館蔵本には奥書等は一切ないが、宮川家蔵本には、最終丁裏に「奉納板木　京師住人　源高就（刻印「高就之印」「君子万年」）」とある。さらに、愛知県の西尾市岩瀬文庫蔵本には、表紙左下に「天忍日命五拾五世孫　正神主従五位下勝部朝臣嘉伯敬白」と書かれる。これらから、この本は、著者は文政八年当時佐太神社の正神主であった勝部（朝山）嘉伯であること、源高就が板木を奉納した、つまりスポンサーがいる自費出版であったことがうかがえる。

源高就に関しては、江戸時代に京都在住の文化人を網羅した冊子『平安人物志』が出版されているが、その天保九年版と嘉永五年版の「文雅」の項にその名がある。嘉永五年版には「*i 三井高就（たかなり） 京都油小路二条南　北三井某」などと記される、のちの三井財閥につながる人物である。安政四（一八五七）年に七十二歳で亡くなっているので、『佐陀大社略記』の出版時は四十歳前後であろう。国際日本文化研究センターによる『平安人物志』の解説には「詩歌書画を巧みにして文雅の士の交わりも多かった」というから、佐太神社とは何らかの交流があり、出版に当たっての援助を行ったと思われる。

実は、この本の版木は佐太神社が所蔵している。版木は十一枚、両面に二ページずつ彫られている。（一）挿絵部分は、人物の服の模様などは摩耗して不鮮明となっており、かなりの部数が刷られたようだ。

（一）版木『佐陀大社略記』江戸時代（佐太神社蔵）

（二）版木の入った箱の蓋（表）

*i
三井高就（牧山）【1785～1857年】
文雅家。名は宗六、字成卿、牧山又桃花庵と号した。詩歌書画を巧みにして文雅の士の交はりも多かった。頼山陽が物集季雲に書き換えた『新居帖』四冊に跋を書いて上梓（弘化二年）している。安政四年三月十七日卒。年七二。真如堂に葬る。（碑面）梅雲院牧山宗陸居士（天保九 文雅 家映五 文雅）

版木の入った箱の蓋には「嘉永二（一八四九）年　佐陀大社 社記 板木　拾壱枚入　酉十二月吉日」（二）、裏には「勝部嘉基　求之　箱秋山久兵衛作」（三）と墨書されている。嘉基は『佐陀大社略記』著者の嘉伯の次の正神主である。最初の発行から二十年以上経て、板木は佐太神社に戻ったようである。

『佐陀大社略記』は本屋で売るのではなく、自ら配布するために作成したもののようだ。江戸時代後期は木版印刷による出版が盛んで、このような自費出版も多かった。とは言え、出版にはかなりな費用が掛かる。三井高就の援助を受けてまで出版したのは、世に広く佐太神社の権威を周知してもらうためでもあったのだろう。

（三）版木の入った箱の蓋（裏）
「勝部嘉基　求之　箱秋山久兵衛作」

佐陀大社略記序

それ天地開闢のはじめ、伊弉諾伊弉冉二柱の神みとのまぐはひして、大八州及び山川草木をうみたまひ。次に、日神月神素戔嗚尊を生たまふ。日神御名は、天照大御神又は大日女命とまふす。此の神くしびにひかりうるはしくましまして、天地のうらにてりとをらせり。かれ天の御柱をもて天におくりあげまつりきしかありしより、天津日嗣はあめつちのむた常盤堅磐にさかへまし、八百万神たち皆夜の守り日の守りとほせきまもりたまふをもて、延喜式内三千一百三十二座の神社を定られしぞ。か中に、八雲たつ出雲國秋鹿郡足日山に宮柱太しく立ていつき祀れる佐陀大社は、ちはやぶる神代のむかし、佐田御子命てふ神のことはじめたまへりしより、ちとせ八千とせ年を歴て、霊験日々にあらたなるいともたふとき御社にしあれとぞを、知りえぬ人はつかへまつらむよしもなし。いかでくすしき神徳を世にひろくせましとおもひをこしつつ、此たび神つかさのともがら一まきのふみをものして、をのがはし書を請ひ求められしまに、かのふみをみそなはするに、三社御鎮座のゆゑよりし神の御威稜のかしこさはいふもさらなり。祭祀の式、末社〳〵のことわけ、境内のおもむきをさへにつばらに記してもれたることはなくなもありける。かくねもころに思ひかれたるは神にあつきまめごころとやいはむ。人は此のこころをもてこころとせば、神はひとのいやまふによて威をまし、人は神の徳によて運を添ふてふことわり、あにむなしからめやも。

文政八乙酉のとし二月朔の日　遊絲翁

右二社ハ式内也。中古破壊以後造営なし。

一中御殿　伊弉諾尊　伊弉冉尊
一左御殿　天照大神　月弓尊
一右御殿　素戔嗚尊　秘説四座

社山足日山又三笠山或ハ不老山ト云風土記詳ナリ
伊弉諾濱ハ当社ノ乾ニアタリ一里計

末社

一戸立社　手力雄命
一振鉾社　天鈿女命
一垂水社　罔象女命
一天神社　菅　神

勝間山ハ当社ノ艮ニアタリ十四五町計
神目山ハ当社ノ乾ニアタリ二十町計

右四社一棟

一山王社　大己貴命
一宇智社　天児屋根命
一玉御前社　玉屋命
一竹生嶋社　稲倉魂命

神出嶋ハ当社ノ坎ニアタリ一里半計
見澄池ハ当社ノ巽ニアタリ三町計

右四社一棟

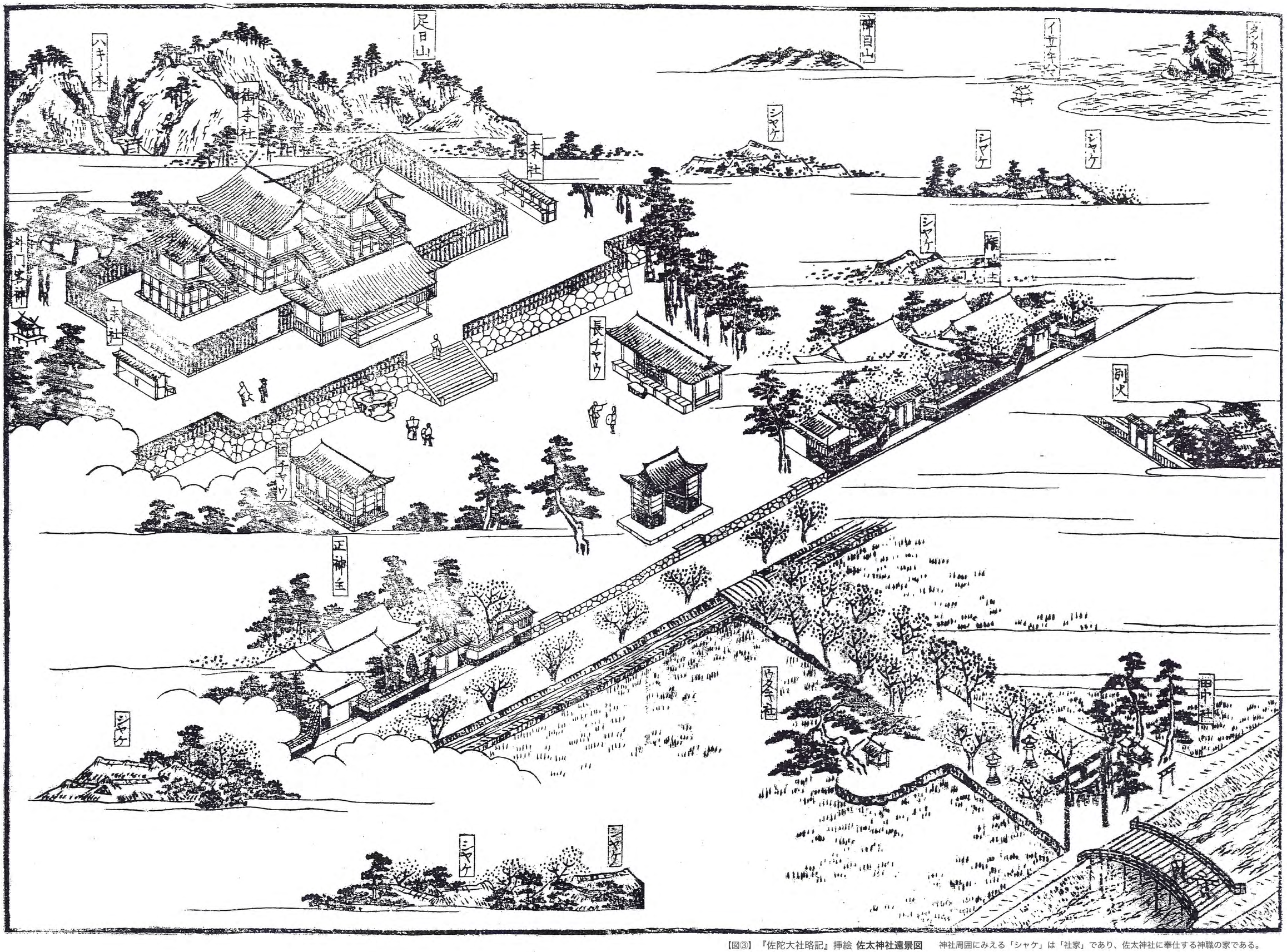
一門客神社　天忍日命　大来目命
一宇多貴社　下照姫命
一田中神社　一社　磐長姫命　一社　木花開耶姫命
一外門客神社　豊磐間戸命　一社　秋鹿郡宮内村にあり　櫛磐間戸命　一社　嶋根郡名分村にあり
一日田神社　稲田姫命
一御井神社　天御中主尊

此余附属地遠近大小二十四ヶ所アリ

抑（そもそも）當社は、神代のむかし佐陀御子命足日山中に御社を造り、伊弉冉尊の御神竟を崇めまつり給ひしより佐陀大社と申奉る。それ天地はじまる時に始て、ともになりいづる神、まず國常立尊と申奉る。この國常立尊より諸冉二柱の御神までを天神七代と申奉る。

二柱の太神はじめて共為夫婦して國土もろ神たちを生み玉ふ。しかるに太神かぐつちの神をうみ玉ふに至りてやかれてかむさりましぬ。則、出雲と伯耆の境比婆山にかくし祭る。この御事を祭るには花の時は花をもて祭り、また籏をたてつづみをうち笛をふきうたひ舞て祭る。日本紀に詳也　そもそもわが春秋の日本は、二柱の太神の霊徳をもてなりいて造化の神秀をあつめ、諸神の鎮ります國なれば、異域に勝りてめでたき国にぞありける。されば東方に君子不死の國ありと後漢東夷伝に出たりもろこし人のいひけるもむべなる哉。王公より以下庶人に至迄、多くは太神の裔なれば誰か神明をおろそかにし神徳をとふとまさらんや。神明正直誠明のことはりはむかし、今時をわかたつ高き賤き人を隔す。善をなせるものには百の祥を施し、不吉をなせるものには百の殃（わざわい）をくだし玉ふことわりなり。ましてや、冉尊は万物の母神にましませば代々の天子ことに重くいつき祀り玉ひ、人皇十一代垂仁天皇五十四乙酉のとし、伊弉諾尊を合せ祭り正殿式営建し玉ひ、四十四代元正天皇養老元年に再建し玉ひしよりこのかた神領数邑を寄付し玉ひ、勅使下向ましましけるが、世のみだれによりて、勅使の下向はやみぬれ共、尼子家毛利家ことに崇敬浅からず。この時迄は神人も弐百二拾四家ありて年中七拾五度の祭祀いと厳重なりしが、豊臣秀吉公の御治世にあたり神領七百貫を三百五十貫に減し玉ふ。風土記に神戸里は佐陀太神の神領也。七百貫は今世七千石にあたるとかや　此時神人減して七拾五家となる。其後、堀尾家当国を領せらるる時、また減して弐百石となる度に至り、神人減して弐拾家となる。然といへども往昔の遺風を守りいまに至り、神領の境に傍示幣を立て柴刺の神事をつとむること古今不易のこととなりぬ。今神領弐百石　扨（さて）御殿は東向にして社地三壇あり。橋三ヶ所、大なるは大鳥居の外にあり。風土記に佐陀御橋といふ是也　社中馬場に桜数百本植ならべ、春枝白雲を帯び、秋葉紅錦を引こと、実に衆人目を驚し、行路の客これが為に歩むことをわする。日本紀に冉命の神竟を祭るに公俗花を捧げうたひ舞て祭るとあり。故に氏人を始、願望の人々桜を植、或は花おどりかさほこをささげ、うたひ舞来れり。

【挿絵（見開き）　佐陀大社　全景図】図③



【図③】『佐陀大社略記』挿絵 **佐太神社遠景図**　神社周囲にみえる「シャケ」は「社家」であり、佐太神社に奉仕する神職の家である。

【三笠山の葉木のひと本、身澄池、勝間神社の下り松】

大鳥居に　後鳥羽院の勅額清水谷実秋卿の染筆なりしが、星うつり霜かさなり破壊すといへども、世乱れ神人も減せし折なれば惜哉、終に額版をうしなふ。神階説は三代実録に祥なり

隠州　後鳥羽院の御陵に水無瀬中納言氏成卿、勅使として下向の時當社に詣で玉へて

治めしる国の司もをのづから老せぬ山と神祭るらし

文禄年中細川玄旨翁當社参詣の時

千早振神のやしろや天地とわかち初ぬる国の御柱

三笠山に葉木のひと本　はきは今世にいふ母儀の略言、則冉尊の御陵なり　てふ所あり。社伝の祭事あまたありといへども社秘の神事なれば書記せむこと憚ぬ。

古歌よみ人しらず

恋しては尋ねてもこむ出雲なる佐陀の三笠のはぎのひと本

身澄池　嶋根郡名分村にあり　古歌よみ人しらず

いざなきやいざなみ池のおし鳥はまこもの上にひとり社(こそ)すめ

此の池由来ある神池なりしに星霜を経、旧跡の空しく埋れむとす。しかるに寛政四のとし太守治郷公當社に詣で玉ひし時、この池の埋もれむとするを御質し玉ひ、石をたてて後世に残すべきよし命じ玉ふ。此池佐陀神社に属せる古跡にして、社伝に顕す所、陽神身を浄め玉へる由来をもって身澄池を唱と見えたり。邦君旧跡の空しく埋もれむことを嘆かせ玉ひ、石を建て後世に残すべきよし命じ玉ふ。みすみの文字世々に誤り伝へて、三角三隅の字を書、今や往昔の社伝にもとづき身澄池と識

寛政四壬子仲春

【挿絵　上「下り松」　下「身スミノ池」】図④

勝間神社　嶋根郡名分村にあり小勝間山という　山の周百廿間、松をもて神躰とす。常世の長鳴鳥を祭る故に或は呼て鶏塚といふ。故に今に至り此邊の人家に鶏を飼ことを禁ず。鶏塚の由来によれり。古歌よみ人しらず神詠ともいふ。

鳥の音のいつも絶せぬ勝ま山の松は常世のしるしならまし

此山に老松あり。俗に下り松といふ。松圍壱丈七尺両枝の所にて圍二丈一尺八寸高さ六丈余。幾としを経ぬるといふ事をしらず。大なる枝十三株又七株あり。偃(ふ)して幡（蟠）龍の形をなし生、昇りて飛龍の勢ひあり。実に海内無双の名木なり。奇なる哉。享保年中に花を生す。悪冬の花のごとし。誠に始あるものは終あるの理りにや、年をへて枯侍りぬ。今は絶念にうつし絵を見るのみなり。されども、国の内は更なり、遠津国又は雲の上までも聞えあけて、やむごとなき御方勝間山の五文字折句に

入江民部少輔相尚卿

かはらじよつたへて幾代まつのはのやをの神今まもるをぞみつ

冷泉権大納言為村卿

枝たれてねはふめぐりの陰ひろみ幾代かここに小勝間の松

芝山前参議持豊卿

神の木とあふぐも高し出雲なる勝間の松の世に二なきかげ

いま小勝間山に生る所の松も又代に異なり。むかしの老松の傍そなはり高さ三丈余松圍九尺余惣枝多く下り、就中下りたる枝十二三株、地に附もの五六株、異木なれば此松もめでたく常世のしるしをみずるなるべし。この山に生る松代にうつし植、幾としを経ぬるといふとも、枝下る事なしといへり。神躰にあらざればさもあらんかし。

【佐陀浦、神目山、月見岡】

佐陀浦いにしへは古浦、江角、手結、片句の四ヶ浦をさして佐陀浦と唱。佐陀大社に属せる故なり。今に至り四月直会祭の節古浦よりは獨活、江角よりは海藻、手結よりは鮮魚、片句よりは和布を貢す。

万葉　*ii 人丸

沖津波へなみのきよる佐陀の浦にこのさだへて後こひむかも

同

佐陀の浦によする白波あひたなく思ふに何ぞ妹に逢がたき

玉吟　家隆卿

あふことはいつもさだめぬ佐陀の浦の浪のきしほ恋わたるらん

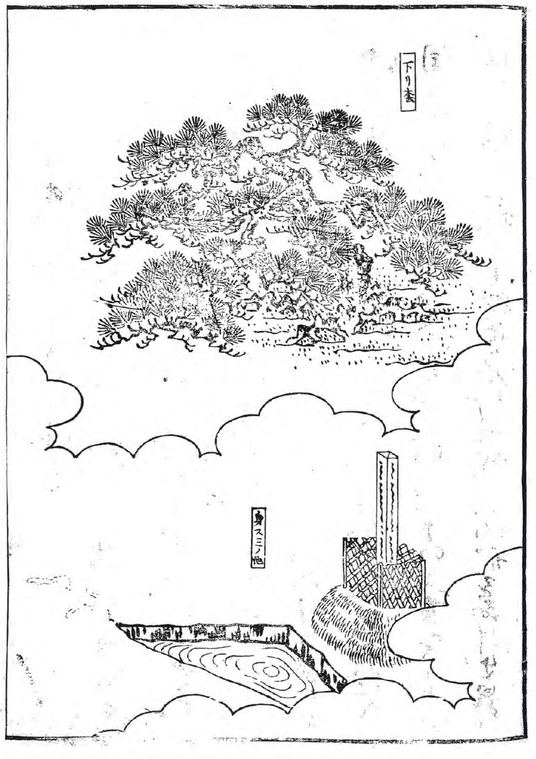
名寄　同

人こころおもひいづるも出雲なる佐陀の浦なみさだめかねつつ

この歌の名残にや寛政年中に人丸神影片句浦神出嶋嶋三ツあり。當社中官別当祝代々預り来れり。此余当社に付属の地廿四ヶ所あり。諸祝部家に預り来る爰に略す。の石面に顕れ玉ふ。いと不思議の事なり。然るをはからずも宮内村百姓井山何某が家に納め信じ奉りぬ。神祇管領長上家より宜しく清らかなる地を撰て祭祀すべきよし命じ玉ふ。扨江角浦の内龍口は由来ある巌穴なり。この所にて祈雨の祭事を勤む。秘する事多ければ略す。神目山　秋鹿郡本郷村にあり。高天原ともいう　十月廿五日神等去出の神事をつとむる所、下に委し。

月見岡　秋鹿郡古志村にあり　古歌よみ人しらず

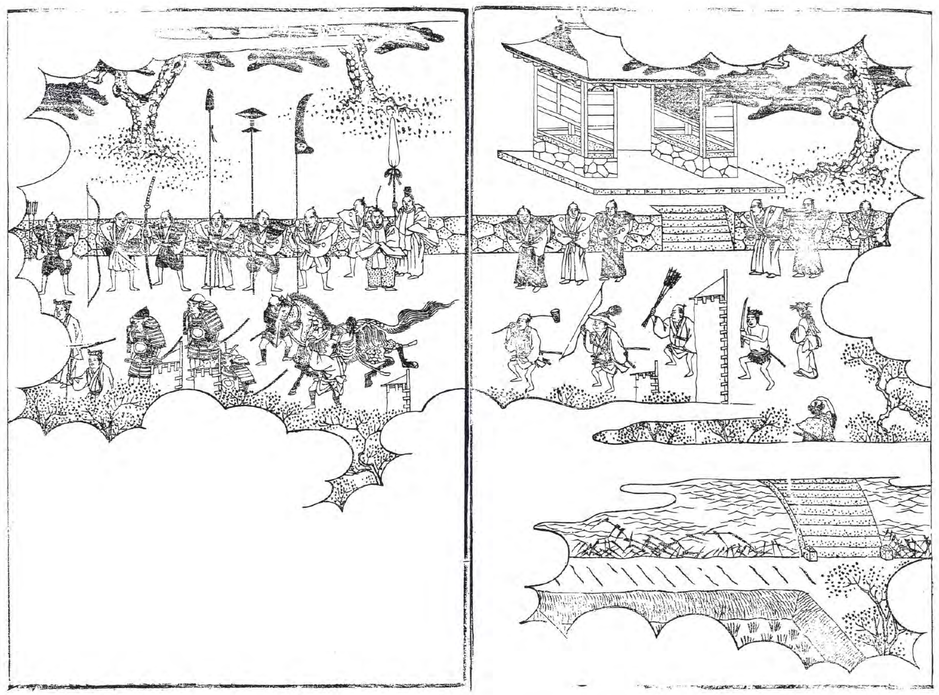
出雲なる佐陀の沢辺に小夜更て月見の岡の月ぞさやけき



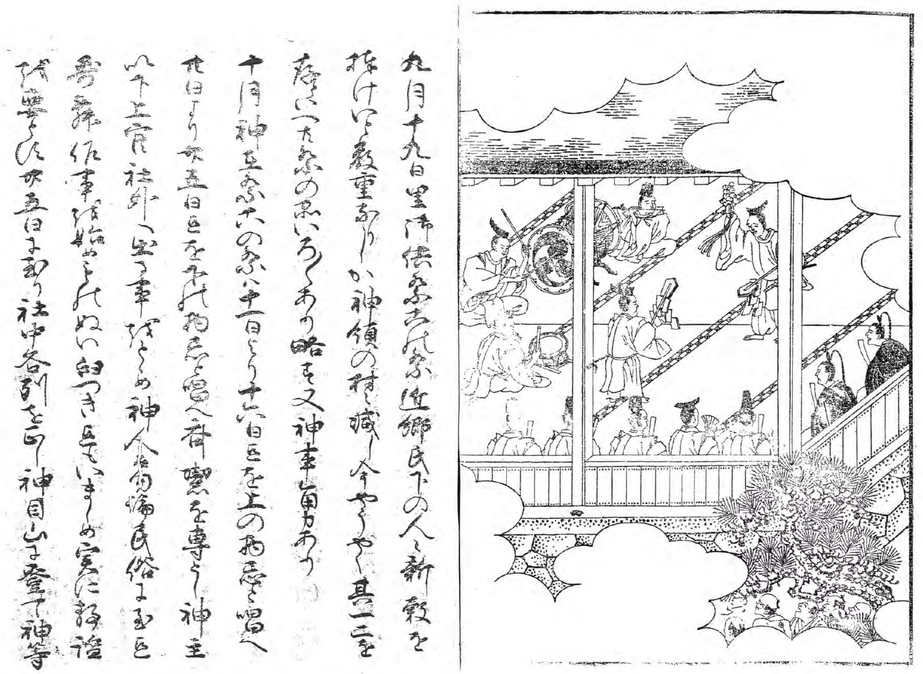
【図④】『佐陀大社略記』挿絵　**下り松と身澄池**

（四）人丸の肖像画
（佐太神社蔵 鹿島歴史民俗資料館に寄託）

*ii
柿本人麻呂（人丸）【推定 660~724 年】
斉明天皇６年（660 年）頃 - 神亀元年（724 年）生没年経歴とも不詳。飛鳥時代《万葉集》の歌人。平安時代からは「人丸」と表記されることが多い。人麻呂作と明記された歌は《万葉集》中に長歌 16 首、短歌 61 首を数え、ほかに《柿本人麻呂歌集》の歌とされるものが長短含めて約 370 首におよぶ。



【図⑤】『佐陀大社略記』挿絵　**四月祭祀**　現５月３日の直会祭は、江戸時代までは旧暦４月３日に行われていた。
藩主 から神馬が贈られ、祭屋から神社までの行列には武器を持った藩士の参加もあった。



【図②】『佐陀大社略記』挿絵　**御座替祭**　七座の様子を描く

【祭祀　正月歳始祭・四月祭祀・六月名越祭】

祭祀　年中七拾五度といへども大祭のみをしるす

正月元日歳始祭。同四日御庫ひらき。同十五日管粥祭。神事五穀の豊凶旱損水損風難所をしる事なり。参詣の人々群衆して種籾を拝戴す。

四月祭祀は三月晦日祭屋にをゐて祭式あり。祭屋は嶋根郡名分村、秋鹿郡宮内村両村にあり。祭の当番隔年につとむ 祭屋の庭にあらたに馬屋を造り、同日神主以下上官中官並承仕六ヶ村の小吏監 六ヶ村といふは嶋根郡名分、上佐田、下佐田の三ヶ村、秋鹿郡宮内、本郷、古志の三ヶ村なり。秀吉公神領を減し玉ふ時此六ヶ村となる 其外祭に預る役者に至迄、斎潔を専とし是をつとむ。四月朔日、太守君より神馬を献ぜられ、則祭屋に来る。又、社庫より祭禮警固の武器を祭屋に遣す。同二日徒士同心の制役を出さる。同日、門客神の前にて神事内覧の式あり。神主是をつとむ。同三日祭屋より列を正し道すがら音曲にて直会殿に入り来る。いにしへは国守みづから出て列につらなり玉ひしが中古やみぬ。今上官出て勤む。御名代といふ 同殿にて神主以下の勤むる所、往昔勅使の遺風なり。神庭の中壇にて獅ゝの舞、國廳にて上官幣主祝の家に伝ふる所の猿田彦、太玉、児屋根三神の舞あり。又、戸立祝職事舞、中官連神舞、神子舞あり。下壇にて流鏑馬あり。同五日神事角力ありて、誠に古風の大祭なり。其あらましをしるす。六月晦日名越禊

【挿絵（見開き）　四月祭祀　行列】図⑤

【八月新嘗会・御座替祭・九月里御供祭】

八月十三日新嘗会。今年の新穀又は海山の産物を奉り、五穀豊穣を奉祈の大祭なり。氏下の人々新穀を捧け参拝群集す。又、中壇にて神事角力あり。

八月御座替祭。十九日神主以下上官伊弉諾濱に至り、海臺に御祓し長廳にこもり、斎潔専にし日々昇殿して太禊を真読し奉り、廿四日夜丑刻に至り御座替を執行し奉る。遷宮の式のことし廿四日、太守君より徒士同心の制役を出し玉ふ。又、三郡半の神官のこらず参集して廿四日夜より廿五日一日一夜神事を勤む。

三郡半とは秋鹿郡、嶋根郡、楯縫郡、意宇郡半郡なり。佐陀大社はこの三郡半の社頭にして神社並神官の輩當社に付随する故なり。往昔、勅使下向の砌は此祭祀いと厳重なりしが、中古勅使の下向はやみぬ。しかれども吉岡の先祖、勅使たりし時、永く出雲国に住居すべきのよし勅里を蒙り、秋鹿郡古曽志村に住居し玉ふ今、白髪（鬚）大明神の神職これなり。このゆへに、貞和年中佐陀大社祭祀の事に付、尼子経久公同晴久公より吉岡家當の御直書下され、又、毛利元就公の時上官宮川家當証文、猶又輝元公より御直書下され、よて御座替祭の節は吉岡家三郡半の頭領の役なり廿六日神事角力あり。猶、祭祀の所さまざまありといへども、其あらましをしるす。

【挿絵　御座替祭　七座神事】図②

九月十九日里御供祭。この祭り近郷氏下の人々新穀を捧け、いと厳重なりしか。神領の村々減し、今やうやく其一二を存といへども祭の所いろいろあり略す。また、神事角力あり。

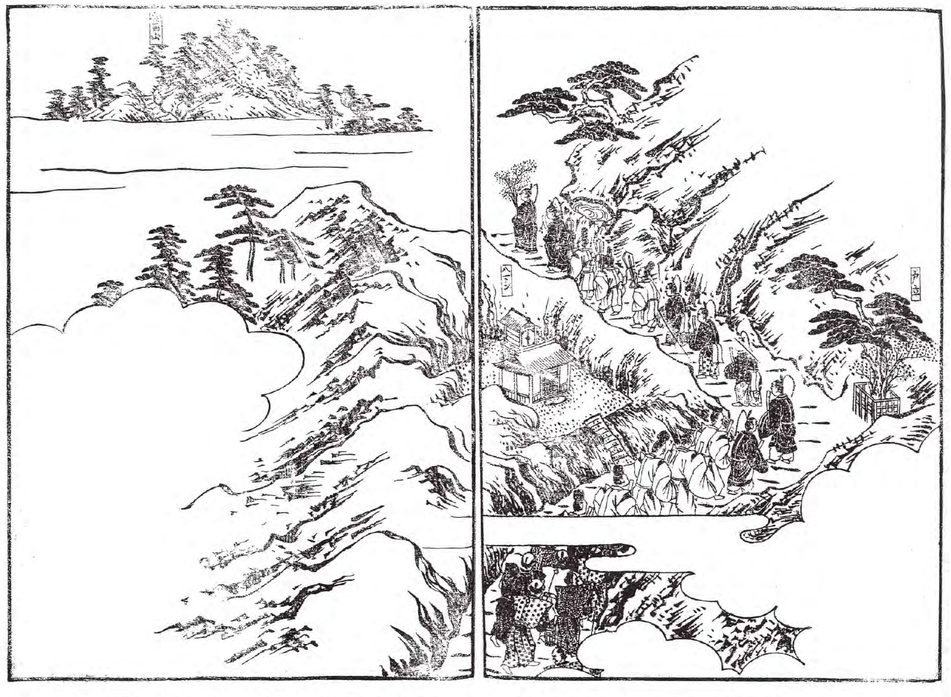
【十月神在祭と龍蛇】

十月神在祭。この祭りは十一日より十六日までを上の物忌と唱へ、廿日より廿五日までを下の物忌と唱へ、斎潔を専とし神主以下上官社外へ出ることをとどめ、神人は勿論民俗に至迄、歌舞作事を始め、ものぬい、臼つき迄もいましめ、実に静謐を要とす。廿五日に至り社中各列を正し、神目山に登て神等去出の神事を勤む。

十月を余国にては神無月と唱へ、出雲に限りて神在月と唱る事。出雲は大八州の内戌亥の地たり。出雲の内にて佐陀又戌亥にあたりて陰地なり。冉尊は陰徳にましまして地理打当なれば佐陀御子命爰に崇め祭り玉ふ。扨十月は亥月にして陰の月なり。又、冉尊は万物の母神にましませば諸神たちこの月當社に集り玉ふ。自然の理りなり。冉尊のかむさり玉ひし時は今の十月にあたるとかや。今の世父母の忌日には血脈たるもの必其家に集り吊も此遺風なれば諸人、神威を尊み奉りて廿日より廿五日迄参詣甚多し。

扨、又、古浦 佐陀の浦の内 にいにしへより龍蛇守といへる祝部ありて、神在祭の砌風涛はげしき時、伊弉諾濱 古浦の内 いでて龍蛇の海原よりうかび来り玉ふを待て清器にうつし當社に捧ぐ神官の輩、廣前に奉幣し、上官の輩奉供して松江に至り登城して献す。太守君を始め奉り、殿中伺公の諸士に至迄各拝戴ましまして後、当社に納むこと年毎にしかり。龍蛇の御形をいへば尺余の小蛇にして、背黒く一天の水徳を表し、腹は黄にして地の徳を顕し、尾先は釵形にして鱗は亀甲六角なり。則六合を表し、誠に奇異の神蛇たり。龍蛇の御徳には海上風波の難をしのぎ、家宝に勧請し奉る時は火災を防護し玉ふ。又、田畑旱魃して苦しむ時、龍蛇に雨を乞祈りければ降雨忽ち潤澤して其愁を除こと世の人の廣くしる所にして、衆人崇敬浅からず。扨又、天明年間京都大火の砌、瑞□某の家に勧請し奉りし龍蛇の社より俄に出水して火災をふせぎ玉ふ事、誠に御異徳いとありがたき事にてぞ。

【挿絵（見開き） 神送り行列】図⑥



【図⑥】『佐陀大社略記』挿絵　**神在祭の神送り行列**　神在祭の最終日（旧暦 10 月 25 日、現在は 11 月 25 日）、佐太神社に参集した神々を送る行列。神社西北の神目山で神送りの儀式がある。

代々の邦君殊に御崇敬浅からず。猶雲の上人迄も聞し召れて

出雲の國大社の乾にあたり佐陀の浦伊弉諾濱に亥の月に
龍蛇の群れ玉ふを讃歎して

前権中納言持豊

橘の小戸の塩瀬に御祓せしことはりみする龍のふるまい

記出雲碧蛇

孟冬采藻佐陀濱　大海霊蛇衝浪辰
碧玉為鱗伸復屈　蛇々先報一陽新

文章博士菅原長親

出雲青蛇賛

玉鱗稜々　龍徳乾々　毎歳呈瑞　一陽之先

丙寅初冬

翰林学士菅原長親

神在祭の式には秘する事多かれば書記せむ事を憚ぬ。

【十二月田植神事】

廣田 宮内村にあり。今広岡といふ 神の代には諸神たち此御田をつくり玉へて佐陀太神の朝食夕食に備へ玉ふとて今此所に御供田神酒田御座田油田などの地名あり。

古歌に

国土の廣きあら野を田となして鍬のみほこや露の玉米
出雲なる佐陀のひろ田に穂かけして露もろともにみのる五種

これ神詠なりといふ。今正月十一日を田打初めとし、此歌を唱へて五穀豊熟を祈り奉る。又、秋は穂かけしてこの歌を唱ふる事廣田のいはれなり。

十二月廿一日二日三日田植の神事あり。この祭は武代村に苗松てふ所あり。是を預り来れる祝部、松の葉を取来て長廳の神前へ備へ、これを苗とし神子田植の式をなす。時に幣主祝田植の歌を発聲すれば諸の祝部皆歌をうたふ。古風殊勝の神歌なり。この故に氏下の村々この月田地に鍬を入る事を禁ず。氏下の人々御供を献じ、五穀成就を祈り奉る。此余祭事あまた略す。

寶物

具足	三領	冑	三刎
弓	二張	箭	二手
太刀	三腰	射手弓	一張　射手道具
長太刀	二腰	野太刀	一腰
鑓	二筋	職事太刀	一腰

三十六歌仙額　和歌 山中通道　画 狩野永雲
右太守綱近公御寄附

冑	一刎	松平志州公御寄附	
山下水	一軸	養法院女君御寄附	
野太刀	一腰	松平衍親公御寄附	

近江八景折本　和歌関白 左右大臣 親王 納言深筆画公佐　彰楽院女君御寄附

薙刀	二振	小太刀	一腰

右太守綱近公御寄附

具足	二領	冑	二刎
刀	一腰　天国	刀	一腰　宗近
刀	一腰　則重	刀	一腰　助宗
刀	一腰　康光		

右尼子経久公御寄附

長刀	一振　家次	刃四尺柄四尺打延	
太刀	一腰　家次	刃四尺	

塩冶高貞公御寄附　同　御寄附

神始言吹草 二巻
巻頭　立春天　　従二位卜部兼敬卿
棚引て天となりえし傍を春立けふの霞みにぞ見る
巻軸　前文略　　民部少輔相尚卿
幾世しも契りかはらぬ言吹の始めをまもる天地の神

面	作者不詳	刀	一腰　備前清光
刀	一腰　播磨大掾正綱	具足	一領
馬具	一通	刀	一腰　播磨大掾正綱
脇指	一腰	短刀	一腰
冑	一刎	大小付	弘法大師筆
短刀	一腰	短刀	一腰

其他数口略之

【以下は岩瀬文庫蔵の版本、宮川家本にある】

奉納板木　京師住人　源 高就

翻刻にあたり、句読点を追加した

松江市立鹿島歴史民俗資料館 2021 年特別展図録
神々への奉仕 - 佐陀神能 - ユネスコ無形文化遺産登録十周年より加筆修正して転載

御座替祭

ゴザガエサイ

九月二十四日　御座替祭（七座神事）
九月二十五日　例祭
御法楽（式三番・神能）

令和三年九月二十四日御座替祭を斎行しました。御座替祭は御本殿三柱をはじめ摂社末社すべての御神座の茣蓙を取り替えるお祭りです。御神座の茣蓙を新しく取り替えることで神々の霊威が常に新しく続くとされ、当社の数ある祭の中で最も重儀であり年毎の遷座祭ともいえる祭です。翌二十五日午後二時より例祭を執行し、滞りなく御座替祭が行われたことを祝し夜七時に式三番・神能を奉納いたします。令和二年は舞殿修復工事中であった為、完工後はじめて舞殿での奉納となりました。

御座替式の前に祭員一同「御座替式」大祓詞三部眞読を奏上する

摂社末社すべての御神座の茣蓙を取り替える

翌25日には御座替祭を執り行われたことを祝し「式三番」「神能」を奉納する

七座神事「御座」　茣蓙を清める舞

七座神事「八乙女」　神なごめの舞

神在祭

ジンザイサイ

十一月二十日　神迎え神事
十一月二十五日　神等去出神事
十一月三十日　止神送神事

令和三年 十一月二十日より神在祭を斎行しました。

社伝によると当社は伊奘冉尊（いざなみのみこと）の陵墓である比婆山の神陵を遷し奉った社と伝え旧暦十月は母神である伊奘冉尊を偲んで八百万の神々が当社にお集りになるとされています。神在祭は二十日の神迎神事（かみむかえしんじ）に始まります。二十五日は神等去出神事（からさでしんじ）で、神社から北西二キロ離れた神ノ目山の斎場へ神々をお送りします。三十日にはでお帰りにならなかった神々をお送りする止神送神事（しわすみおくりしんじ）が執り行われました。祭期間中、八百万の神々の先触（さきぶれ）れ「龍蛇神（りゅうじゃしん）」の特別拝観を修復工事を完工したばかりの舞殿にて行い、多くの方に御参拝いただきました。

11月20日 神迎え神事

11月25日 神等去出神事（神送り）神ノ目山の斎場へ神々をお送りする

11月30日 止神送神事／神ノ目山の斎場から帰る時に柴刺神事を行う

「龍蛇神」特別拝観

柴刺神事

令和四年一月一日

歳旦祭

サイタンサイ

１月７日　七草祭　七草粥

一月一日　歳旦祭
一月二日　二日祭
一月三日　元始祭
一月七日　七草祭
二月三日　節分祭
二月十五日　管粥祭

歳旦祭 多くの方に御参拝いただきました

令和四年六月三十日

水無月大祓

ミナヅキオオハラエ

令和四年六月三十日 嘉例により水無月大祓を斎行いたしました。この祭は夏越大祓とも云い、半年の間に知らず知らずのうちに身に付いた罪穢れを祓い、清らかな身に立ち返らんとする神事で、『備後国風土記』の逸文にある「蘇民将来」神話では茅ノ輪を腰につけて災厄から免れたとされ、茅の旺盛な生命力が神秘的な除災の力を有すると考えられてきました。

令和四年七月十五日

御田植祭

オタウエサイ

令和四年七月十五日 古伝祭 御田植祭を斎行いたしました。来年の豊作を祈る予祝の祭りです。氏子総代や保護者が見守る中、佐陀宮内地区小学生（女子生徒に早乙女、男子生徒に歌人として）ご奉仕いただきました。松葉を苗に見立てて所作をするのが特徴です。

管粥祭の小豆粥

令和四年二月十五日

管粥祭

クダガユサイ

令和四年二月十五日 古伝祭 管粥祭を斎行致しました。忌火で小豆粥を炊きその中に竹筒を入れ、詰まり具合で農作物の吉凶を占うものです。昔から「佐太の占いはよく当たる」といわれていたそうです。今年は「早稲 八歩、中稲 八歩五厘、晩稲 七歩五厘」となりました。尚、コロナ禍により参列は氏子総代のみで行われました。

崇敬者大祭祝詞奏上

令和四年五月三日 直会祭を斎行いたしました。この祭りに合わせて「悪縁切り良縁結び大祭」また佐太神社崇敬会主催による「崇敬会大祭」を御本殿にて行いました。佐太神社の発展と共に広大無辺なる御神恩を報謝し、国家の弥栄と氏子、崇敬者各位の家運隆昌・無病息災が祈念され、舞殿では出雲地方に古来より伝わる祈祷舞「悪切」を奉納しました。悪切祈祷は古来より出雲地方に伝わる祈祷の舞で、諸々の災い、病災を切り祓います。尚、コロナ禍により参列は氏子総代のみで行われました。

午後二時からは直会祭が行われ庭上では「杯式」「獅子舞」舞殿では国庁神事（地固舞・神子舞・猿田三番舞）が佐太神社古伝神事保存協会の方々のご奉仕により滞りなく執り行われました。また庭上の神事の後、悪縁切り良縁結び祈願割符のお焚き上げを行いました。

真ノ神楽

国庁神事「猿田（サダ）三番舞」

(一)矛の舞

(二)幣の舞

(三)榊の舞

「杯式」

直会殿の神事
祝詞奏上　宮司奉幣　眞ノ神楽　杯式

庭上の神事
獅子舞

国庁神事
神子ノ舞　地固ノ舞　猿田三番ノ舞

国庁神事「神子舞」みこのまい

国庁神事「地固舞」じがためのまい

「悪切祈祷」
前段では剣の切先に米を乗せ、四方に散米して辺りを清め、
後段では剣で東・西・南・北・黄龍（中央）の諸悪厄災を切り祓う

祭事だより 写真撮影 阿礼

令和３年度 佐太神社崇敬会一般会計決算報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日
（単位：円）

【歳入】

項目	決算額	今年度予算額	増減	備考
繰越金	633,028	633,028	0	
会費	2,423,000	1,800,000	623,000	法人570,000 正会員765,000 会員810,000 準会員278,000
寄付金	2,301,000	200,000	2,101,000	佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録記念事業広告協賛1,283,000 一般寄付220,000・二期工事寄付798,000
繰入金	732,403	732,401	2	基金より繰入　7/3
雑収入	6	971	▲ 965	預金利息等
合　計	6,089,437	3,366,400	2,723,037	

（単位：円）

【歳出】

項目		決算額	今年度予算額	増減	備考
玉串料		100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費		2,225,520	1,600,000	625,520	
	古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	佐太神社へ寄贈
	崇敬者大祭奉賛事業	213,000	300,000	▲ 87,000	直会祭・崇敬者大祭費用コロナ禍で参列中止
	修繕・環境整備事業	1,014,520	1,000,000	14,520	佐太神社へ寄贈30万　宮司就任記念品（正服）・真榊一対他
	式年御造営奉賛事業	798,000	100,000	698,000	佐太神社特別会計へ繰出（第二期工事寄付分）
事務費		751,689	700,000	51,689	
	会議費	47,674	50,000	▲ 2,326	崇敬会総会費用等
	手当	10,000	10,000	0	監査手当
	通信費	164,363	150,000	14,363	インターネットプロバイダ料金等
	印刷製本費	406,550	320,000	86,550	崇敬会だより・祭事案内・協賛金チラシ等
	消耗品費	20,577	30,000	▲ 9,423	コピー紙・事務用品等
	旅費・交通費	30,000	30,000	0	旅費
	広報費	68,200	100,000	▲ 31,800	公式ホームページ管理費用等
	雑費	4,325	10,000	▲ 5,675	振替手数料・収入印紙等
委託料		227,943	243,800	▲ 15,857	
	システム利用料	143,856	150,000	▲ 6,144	顧客・仕入管理・販売管理システム使用料
	保守料	54,087	63,800	▲ 9,713	システム保守料
	事務委託料	30,000	30,000	0	
補助金		1,413,000	290,000	1,123,000	古伝神事保存協会補助金　130,000 佐陀神能保存会補助金　1,283,000
基金		150,000	150,000	0	定期預金等3/28
予備費		113,080	282,600	▲ 169,520	田中神社御朱印デザインレイアウト　慶弔費等
合　計		4,981,232	3,366,400	1,614,832	

歳入合計	歳出合計	差引残高
6,089,437	4,981,232	1,108,205

上記の残額は、令和4年度会計へ繰り越すものとする。

令和３年度佐太神社崇敬会会計監査について

関係帳簿等を監査した結果、適正に処理が行われ、正確であったことを認めます。

令和４年５月17日　　監事　桑谷充夫

※個人情報の観点から、署名及び印影については資料に掲載しておりません。

令和３年度 佐太神社崇敬会事業報告

去る５月17日に崇敬会理事会・評議員会が開催され、令和３年度事業及び会計報告、令和４年度事業計画及び予算案が下記のとおり承認されましたのでご報告申し上げます。会員の皆様方におかれましては、今後とも当会の趣旨に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

月　日	事業・祭事名	概　要
５月３日	崇敬者大祭	佐太神社の発展とともに広大無辺なる御神恩を奉謝し国家の弥栄と崇敬者各位の家運隆昌・無病息災を祈念 関連祭事／悪切祈祷の奉納／コロナ禍の為神職のみ奉仕 参列自粛／佐太神社門前市中止
６月23日	理事・評議員会(総会)	令和３年度活動・決算報告 令和４年度予算・活動計画（案）／コロナ禍の為書面審議
９月24日～25日	御座替祭・例祭	御座替祭・例祭への参列自粛案内送付 こども佐陀神能教室成果発表会
11月20日～25日	神在祭	御神灯奉納受付・燈明 参列案内送付
２月３日	節分祭	氏子有志による鯨汁ふるまい　コロナ禍の為中止
通年の活動	式年御造営奉賛活動	寄付金の募集 第二期工事記念品の頒布
	古伝祭奉賛事業 修繕・環境整備事業	古伝祭継承、修繕・環境整備事に係る費用の補助 佐太神社へ寄贈　宮司就任祝い正服を贈呈
	広報事業	各祭事に案内状作成・送付 崇敬会入会案内・第二期工事奉賛案内送付 崇敬会だよりの発行／公式ホームページやSNS等で 祭事関連の話題を掲載
	補助事業	佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念事業 （令和４年度に延期）　佐太神社古伝神事保存協会 佐陀神能保存会への活動補助金を贈呈 節分祭催しはコロナ禍の為中止

会員への待遇	会員加入状況
①希望者に御本殿御垣内参拝 ②各祭事参列案内送付 ③崇敬者大祭に招待 ④毎年神札を授与 ⑤会員章を授与	会員数　　件数（増減） 準会員　103件（＋9） 会員　122件（△8） 正会員　82件（△10） 法人会員　14件（△1） 合計　321件（△10） 会費未納２年以上の方は退会扱いとした

令和４年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の催事を振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三宇をはじめとした国・県指定の文化財・美術品等の社宝を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、広大無辺なる御神徳のもと、広く人々の平安と繁栄を願い設立されました。この趣旨にご賛同いただき多くの方々にご入会、ご支援を賜り、更なる奉賛事業の発展に取り組んでまいりたいと存じます。

【令和４年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書】

自：令和4年4月1日～至：令和5年3月31日

【歳入】 （単位：円）

項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
繰越金	1,108,205	633,028	475,177	
会費	1,800,000	1,800,000	0	
寄付金	430,000	200,000	230,000	寄付・広告協賛金等
繰入金	0	732,401	▲ 732,401	
雑収入	795	971	▲ 176	貯金利息等
合　計	3,339,000	3,366,400	▲ 27,400	

【歳出】 （単位：円）

項目		今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
玉串料		100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費		1,470,000	1,600,000	▲ 130,000	
	古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	古伝祭費用として佐太神社へ寄贈
	崇敬者大祭奉賛事業	370,000	300,000	70,000	
	修繕・環境整備事業	700,000	1,000,000	▲ 300,000	環境整備費 30万円佐太神社へ寄贈 直会祭諸道具修繕費　鎮守の森整備他
	式年御造営奉賛事業	200,000	100,000	100,000	佐太神社施設整備特別会計へ繰り入れ
事務費		810,000	700,000	110,000	
	会議費	50,000	50,000	0	役員会　総会費用
	手当	40,000	10,000	30,000	監査手当・祭事写真撮影手当
	通信費	150,000	150,000	0	郵送料、インターネットプロバイダ料金
	印刷製本費	400,000	320,000	80,000	崇敬会だより会員入会及寄付案内等の作成費
	消耗品費	30,000	30,000	0	
	旅費・交通費	30,000	30,000	0	
	広報費	100,000	100,000	0	公式ホームページ管理費用等
	支払手数料	10,000	0	10,000	口座振替手数料等
	雑費	0	10,000	▲ 10,000	
委託料		260,000	243,800	16,200	
	システム利用料	150,000	150,000	0	顧客・仕入・販売管理システム使用料
	保守料	60,000	63,800	▲ 3,800	顧客・仕入・販売管理システム保守料
	事務委託料	50,000	30,000	20,000	
補助金		290,000	290,000	0	佐陀神能保存会・古伝神事保存協会補助 節分祭催し補助
基金		150,000	150,000	0	基金へ繰出
予備費		259,000	282,600	▲ 23,600	
合　計		3,366,400	3,366,400	▲ 27,400	

（単位：円）

歳入合計	歳出合計	差引残高
3,366,400	3,366,400	0

【令和４年度 佐太神社崇敬会基金収支予算書】

自：令和4年4月1日～至：令和5年3月31日

【歳入】 （単位：円）

項 目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備 考
繰越金	1,420,549	2,002,917	▲ 582,368	
繰入金	150,000	150,000	0	佐太神社崇敬会一般会計より繰入
雑収入	451	83	368	預金利息他
合　計	1,571,000	2,153,000	▲ 582,000	

【歳出】 （単位：円）

項 目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備 考
繰出金	0	732,401	▲ 732,401	
合　計	0	732,401	▲ 732,401	

（単位：円）

歳入合計	歳出合計	差引残高
1,571,000	0	1,571,000

佐太神社崇敬会役員名簿

任期　令和４年４月１日～至：令和７年３月31日まで（敬称略）

役職	団体名	氏　名	備　考	
顧問		朝山 哲		佐太神社宮司
会長		宇藤 志郎		佐太神社責任役員 総代長
副会長		佐藤 尚士		株式会社佐藤組 代表取締役 佐太神社総代
副会長		秋山 辰雄		佐太神社総代
理事		青山 豪太郎	新 任	佐太神社総代
理事		井山 隆		佐太神社総代
理事		亀城 幸平		佐太神社総代
理事		新宮 文雄		佐太神社総代
理事		中島 真砂樹	新 任	佐太神社総代
理事		長野 博	新 任	佐太神社総代
理事		山崎 廣安		佐太神社総代
評議員	一畑電気鉄道 株式会社			
評議員	カナツ技建工業 株式会社			
評議員	株式会社 山陰合同銀行			
評議員	株式会社 島根銀行			
評議員	島根県合板共同組合			
監事		井山 定夫	新 任	佐太神社総代
監事		桑谷 充男		佐太神社総代
事務局長		石橋 淳一		佐太神社 権禰宜
事務局員		金津 信子		

報告

後世に伝える　佐陀神能用具等修理・新調事業

佐陀神能保存会　会長　石橋 淳一

「佐陀神能民俗民俗文化財調査委員会」により令和元年度から令和二年度の二か年にわたり行われた調査結果を基に専門家の指導を頂き、佐陀神能保存会が使用する面・装束・その他諸道具について修理・新調事業を実施しています。

令和三年度文化庁補助事業として式三番に使用する　白式尉（翁）面、黒式尉（三番叟）面・装束・烏帽子、千歳装束、神能に使用する木冠が新調されました。

【写真①】　能楽面の形式（ウサギの皮や麻を使ったぼんぼん眉）

「三番叟」
（佐陀神能保存会所蔵の三番叟装束が無く、やむを得ず神能の装束を使用していた）

【写真②】復元新調した白式尉（翁）面

復元新調した諸道具の特徴について

白式尉（翁）面は[*1]礼楽会が使用していた面を参考に復元新調を行いました。眉は現在一般的に使用されている能楽面の形式（ウサギの皮や麻を使ったぼんぼん眉）と違い、黒式尉（三番叟）面と同じく馬の毛が植毛されています。これは出雲地方の神楽に使用される翁面に見られる特徴のようです。

*1 明治初年に島根郡と秋鹿郡の神職有志によって組織された団体で、昭和三十年代の終わりごろまで活動を行っていた。

【写真③】黒式尉（三番叟）面　表

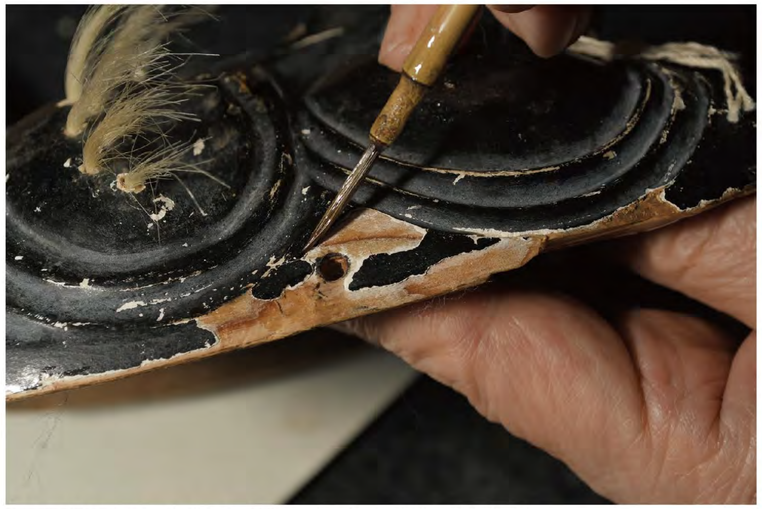
【写真④】黒式尉（三番叟）面　裏
墨書「願主　山本小左衛門［花押］」

黒式尉（三番叟）面は佐陀神能保存会が所蔵している面（写真③　伝：桃山期作）を見本としました。経年劣化で塗装がかなり剥離していましたので修復（写真④）を施したうえで写しを作成しています。古い面の裏側は塗りが無い状態でしたが、恐らく後世に裏塗りを剥がし、奉納者名を墨書したのではないかと思われます。今回の新調では裏塗りを施しました。

【写真⑥】
復元新調した黒式尉（三番叟）面　表

【写真⑦】
復元新調した黒式尉（三番叟）面　裏塗

この二面はいずれも大阪府在住の能面作家
見市 泰男氏により作成いただきました。



【写真⑤】補彩は行わず彩色層と木地の隙間に細い面相筆で膠を数回注入

【写真⑧】三番叟鎧直垂　前身（許曾志神社蔵）

千歳・黒式尉の装束（鎧直垂・袴）は松江市古曽志町鎮座の許曾志神社所蔵の衣装を参考に復元新調を行いました。能楽の鎧直垂は麻が使用されていることが多いですが、この地方の特産だったからなのか木綿生地を使用していましたので同様に復元しています。

鎧直垂の前身の裾は能楽では袴の中に入れて外に出しませんが、松の枝模様が施されており、恐らく前身の裾を外に出していたと考えられます。これは黒川能[*2]など民俗芸能の三番叟にも見られます。また、前身と後身をつなぐ二本の合引きがついていますが、修復を手掛けていただいた京都の佐々木能衣装様によると能楽の古い衣装には同様の形態が見られるとのことでした。

後身には鶴が染め抜かれています。三番叟の方は口を開けており【阿】（写真⑨）、千歳の方は口を閉じており【吽】（写真⑩）となっています。千歳の大口袴は亀甲柄（写真⑪）で鎧直垂の柄とあわせて鶴亀を表し、三番叟の大口袴は市松模様（写真⑫）でその柄が途切れることなく続いて行くことから、繁栄の意味が込められているのではないかと考えられます。

【写真⑨】三番叟鎧直垂　後身【阿】（許曾志神社蔵）

【写真⑩】千歳鎧直垂　後身【吽】（許曾志神社蔵）

【写真⑪】
千歳大口袴　亀甲柄（許曾志神社蔵）

【写真⑫】
三番叟　大口袴（許曾志神社蔵）

*2 旧正月にあたる二月一日から二日間にわたって、山形県鶴岡市黒川地区に鎮座する春日神社の旧例祭「王祇祭」で奉納される。

【写真⑭】
三番叟の面をつける千歳 令和４年４月30日佐陀神能特別公開

【写真⑬】三番叟烏帽子　佐陀神能保存会蔵

【写真⑮】千歳（せんざい）の舞

この他松江市補助事業として七座の舞で使用する布衣、巫女装束、神能「大社」で使用する装束などを併せて新調いたしました。

令和四年四月二十六日には上定昭仁松江市長を訪問し、諸道具の修復・新調事業の進捗状況の報告と御礼をいたしました。

四月三十日にはコロナ禍で三年ぶりの開催となった特別公開に完成した諸道具を纏い演舞させていただきました。また、来賓として上定市長にご臨席を賜り、松江市としても佐陀神能の保存継承に引き続き尽力する旨のお言葉を頂きました。

今年度も引き続き修復・新調事業を進めてまいりますので皆様のお力添えをいただきますようお願い致します。

「佐陀神能」公開へ 保存会意気込み

松江市長を訪問

神楽で使う衣装をまとった上定昭仁市長（右から２人目）と、佐陀神能保存会のメンバーら＝松江市役所

佐太神社（松江市鹿島町）に伝わる神楽で、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されている「佐陀神能」が、4月30日から3年ぶりに特別公開される。保存会のメンバーらが26日、松江市の上定昭仁市長を訪問し、意気込みを語った。

約400年の歴史がある佐陀神能は、2011年にユネスコの無形文化遺産に登録された。新型コロナウイルス拡大で特別公開は一昨年、昨年と中止になったが、今年は感染予防対策を講じた上で実施する。佐陀神能保存会の石橋淳一会長は「感染拡大の影響で練習もままならなかった面もあるが、精いっぱい準備した。たくさんの方に見ていただきたい」と語った。

4月30日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日で、開場は午前8・9時（中学生以下無料）。問い合わせは主催の松江観光協会（平日のみ、085・27・5843）へ。（木元健二）

【写真⑯】
令和４年4月30日 佐陀神能特別公開で上定市長よりご挨拶をいただきました。

山陰中央

3年ぶりの一般公開を前に、稽古に励む佐陀神能保存会のメンバー＝松江市鹿島町佐陀宮内、佐太神社

佐陀神能 3年ぶり公開

30日 衣装新調 稽古にも気合

新型コロナウイルス禍で中止されていた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産で、400年以上の歴史がある「佐陀神能」の一般公開が30日、3年ぶりに松江市鹿島町佐陀宮内の佐太神社で始まる。2018年からの2年間に市内の神社などで見つかった道具を復元した面や衣装の初披露となる舞台。佐陀神能保存会のメンバーの舘吉に気合が入っている。（片山昭平）

松江市内の神社などの調査を踏まえて新調された衣装

一般公開は30日を皮切り、神社（松江市古曽志町）所蔵の衣装から復元したほか、面なども新調した。

今年は、9月25日の「御座替祭」も開催予定で、10月には昨年中止したユネスコ登録10周年記念事業を計画。石橋淳一会長（会長5）は「新しい道具を活用して立派な演舞をできるように努力する。あまりやらない独自の色がある演目も演舞する予定だ」と呼び掛けている。

5月以降の一般公開日は、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日で、開場はいずれも午後8・9時半。席料は個人1500円（中学生以下無料）、団体（20人以上）千円。

令和４年4月30日 佐陀神能特別公開

報告

佐太神社 式年御造営第二期工事実施状況について

1. バリアフリー施設工事　車いす走行路工事

施工：株式会社 佐藤組
工期：令和３年７月１日～９月 15 日

2. バリアフリー施設工事（その２）手摺設置工事

施工：有限会社 石匠
工期：令和３年８月 23 日完工

4. 絵馬掛け設置工事

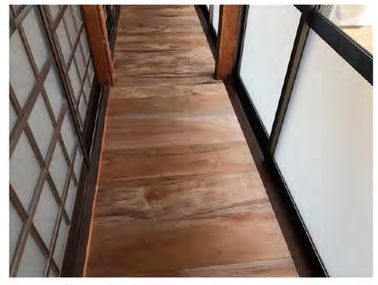
施工：株式会社 石原建築
工期：令和３年 12 月２日完工

6. 第二期工事案内看板貼替え施工

製作・施工：soranfabrics
工期：令和３年９月 22 日完工

3. 母儀人基社案内看板

施工：株式会社 石原建築／製作：soranfabrics
工期：令和３年 12 月２日完工



5. 直会殿廊下改修工事

施工：株式会社 石原建築
工期：令和４年６月 30 日完工

7. 幟製作（出雲國二ノ宮 佐太神社）

製作：soranfabrics
工期：令和３年９月 20 日納品

お知らせ

重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟防災施設整備事業

佐太神社の専用防災施設は、消防法施行令で義務付けられる消火器及び自動火災報知設備のみで、防災施設の整備が必要な状況にあります。加圧送水設備、消火設備などを設置することで、防災施設の改善を図るとともに貴重な歴史的資源を確実に後世に継承出来るよう国の重要文化財等防災施設整備事業（文化庁補助事業）を活用し下記のとおり整備を行っております。

重要文化財である佐太神社を火災から守るために、火災を予防しかつ有事の際には消防隊が現場に到着するまでの間、現有の職員体制で対応できる万全な奉斎施設の整備を図るものです。

昨年令和三年には実施設計と貯水槽・ポンプ室建設予定地の社務所裏神宮寺跡の埋蔵文化財調査を行いました。（一）

令和四年七月六日に工事の入札会が行われ能美防災株式会社様が落札されました。（二）

現在、佐太神社正中殿他二棟防災施設整備工事が行われています。写真は社務所裏の防火水槽、ポンプ室建設工事の様子です。（三）

なお防災施設整備事業終了後、社務所増設工事（宮司潔斎室書庫）を予定しております。ご参拝の皆様にはご迷惑をお掛けしますが何卒ご容赦ください。

【一】社務所裏神宮寺跡の埋蔵文化財調査の様子

記

【計画内容】

令和３年度：実施設計、発掘調査

令和４年度：防災設備工事（自動火災報知 設備工事、防犯設備工事、消火設備工事、避雷針設備工事等）の実施

設計者　株式会社 KOU 設計

施行者　能美防災株式会社

【二】防災設備工事の入札の様子

佐太神社に防火設備
文化財 国、県、市が助成
放水銃や避雷針設置へ
事業スケジュール

山陰中央新報 令和３年２月 17 日掲載

【三】社務所裏の防火水槽、ポンプ室建設工事の様子

お願い

後世に伝える

鎮守の森保全事業 協賛のお願い

「鎮守の森」「隠れ住まう」神域カムナビ

弥山社へむかう参道は倒木等で走行が困難

古来より神が「鎮座する」または「隠れ住まう」山や森の神域をさす言葉に「カムナビ（神奈備、カンナビ、カミナビとも）」といい、出雲國風土記には『神名火山　郡家東北九里卅歩　高二百卅丈　周一十四里　所謂佐太大神社　即在彼山下也』と記されており、当社後背の弥山は秋鹿郡のカンナビ山に連なり神社を囲む「鎮守の森」は重要な神域であります。

しかしながら、当社神領地の森林も各地の里山で見られるように藪化の進行、竹の侵入、倒木の放置等で荒廃が進んでおります。

つきましては、この歴史的、植生的に価値の高い神社林森の保護再生、植栽整備等を行い「鎮守の森」を永続的に保全すべく下記のとおり整備事業を行いますので皆様のご支援・ご協力の程宜しくお願い致します。

①母儀人基社から弥山 中弥山の参道整備 弥山社の修復

弥山社は山頂に祀られた末社で大山祇命をご祭神とする磐境。元は平安時代末頃に建立された経塚で末法思想による経文を収めたものと伝える。

参道は神社から佐陀奥ノ院ともいわれる真言宗の古刹成相寺まで続いていたようで中世には社僧が神宮寺へ出仕する際に往来したといわれている。

②神ノ目山参道及び斎場の整備

神ノ目山は神在祭の最終日、神送りを行う斎場で神社から北西1.5キロ離れた山中にある。元来は禁足地で斎場からは日本海を望み、八百万神をお送りする重要な祭祀の場所である。

本殿裏法面に繁茂する真竹・クズ等

荒廃した弥山社

崇敬会奉賛事業実施に伴うご寄付のお願い

佐太神社崇敬会では神社の発展と隆昌を願い下記の事業に取り組んでまいります。皆様方の御懇情を賜り、ご神徳に報いることができますよう宜しくお願いします。なお、ご協賛いただいた方には崇敬会だよりに御芳名を記し顕彰いたします。

記

1. 事業内容
   - ① **佐太神社式年御造営第二期工事**（宮司潔斎室及び書庫増設）
   - ② **鎮守の森保全事業**（弥山社修復、参道整備・神ノ目山参道整備）
   - ③ **佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録記念事業**（諸道具の修復・新調・継承に係る補助等）
   - ④ **古伝神事奉賛事業**（佐太神社の祭事継承）
   - ⑤ **その他**
2. 協賛金額　一口　5,000 円より承ります
3. 待遇
   - 佐太神社崇敬会だより（第七号 令和 5 年発行）
   - 佐太神社公式ホームページ上で御芳名・広告を掲載し顕彰させていただきます（一口あたり　枠サイズ　約 W100mm×H25mm）
   - 崇敬会だより A4 冊子　年 1 回発行／発行部数 10,000 部
   - 崇敬者・参拝者に無料配布（佐太神社 公式ホームページでも閲覧可能です）
   - ※寄付される場合、「匿名希望」と金額非掲載を選択することができます
4. 募集期間　令和 5 年 7 月末まで
5. 納入方法　下記事務局へご持参いただくか
   銀行振り込みをお願いします

   ゆうちょ銀行　一三九店　当座 0053003
   口座名義　サダジンジヤスウケイカイ

   ※恐れ入りますが振込手数料はご負担願います

▲ 佐太神社 崇敬会だより「神在の社」冊子

6. 問い合わせ先　島根県松江市鹿島町佐陀宮内 73
   佐太神社内　佐太神社崇敬会事務局　石橋
   TEL/FAX (0852)82-0668　E-mail：info@sadajinjya.jp
   ※掲載される広告内容・データ等がありましたらをメールにてお送りください

編集後記

「龍蛇さんはいつから上がってないの?」学校の郷土学習で神在祭を調べる子に聞かれました。さっと答えが出ませんでしたが、記録を調べると平成二十年を最後に現在まで十四年間もお上がりになっておりませんでした。

神在祭に八百万の神々を導いて来られる龍蛇神。言い伝えではお上がりにならいと天下に災い・禍事があると言われています。平成二十一年には政権交代が起こり、政治が混沌としその後東日本大震災、原発事故。最近ではコロナ禍、ロシアのウクライナ侵略、それに伴うエネルギー価格の上昇、安倍元首相の暗殺と本当に世相を表していると感じます。

はやく龍蛇さんがお上がりになって穏やかで平穏な日々が続くと良いなと心から願っています。

なお、今年は11月3日～6日　11月21日～25日の間　舞殿にて　龍蛇神特別拝観を執り行いますので是非ご参拝ください。（J）

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第六号（令和四年九月発行）
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業

ご協賛いただき誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

株式会社 佐藤組

〒690-0851 島根県松江市堂形町737番地3 TEL(0852)26-5480/FAX(0852)27-8259
https://www.satohgumi.co.jp/

國學院大學　教授　小川 直之

深工房 梵天 BONTEN

〒999-0425 山形県西置賜郡飯豊町大字宇津沢 188 番地
some_bonten@yahoo.co.jp

お知らせ

後世に伝えよう 子ども佐陀神能教室

子ども佐陀神能教室は今年度で結成四年目を迎えました。昨年子ども達が演舞する予定だった第三回「神座」～神々への舞～は延期されましたが、九月二十五日の佐陀神能演舞の前に奉納させていただきました。佐陀神能保存会のメンバーや親御さんが見守るなか改修したばかりの舞殿で立派に演舞を披露しました。

（写真撮影　阿礼）

子ども佐陀神能「八乙女」

子ども佐陀神能「剣舞」

子ども佐陀神能「山神祭」

子ども佐陀神能「真ノ神楽」

子ども佐陀神能「山神祭」

子ども佐陀神能「八乙女」

子ども佐陀神能「山神祭」

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第六号（令和四年九月発行）
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業

ご協賛いただき誠にありがとうございました

（順不同・敬称略）

丹野 佳代子	井上 克己
小川 真也	宮廻 茂雄
東京都足立区 金杉 尚道	小柳津 裕子
Flower & Balloon Gift Me-You みゆう 株式会社サンユウ SANYU 竹歳 まり子 〒561-0817 大阪府豊中市浜 1-26-13 TEL&FAX(06)6333-2828　TEL&FAX(06)4867-1525 http://www.flower-me-you.com/	高橋 雅弥
鹿島デイサービスセンター こぢょっこらと Kodyokkorato 〒690-0801 島根県松江市鹿島町上講武 894-1 TEL(0852)82-3355 ／ FAX(0852)82-3356	社会福祉法人 四ッ葉福祉会 〒690-0121 島根県松江市古志 1551-4 TEL:0852-36-8877　FAX:0852-36-8894 http://www.yotsubaen.or.jp/

鹿児島縣 新屋 信江

石川 真澄	渡邉 和子
楠 佳巳	佐々木 幹雄
三宅 修司	阿部 秀男
新崎 冷子	出口 幸宏
太田 久美子	中田 誠
石橋 みづ枝	井上 嘉保留

佐太神社崇敬会だより 神在の社（かみありのやしろ）

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第六号（令和四年九月発行）
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業
ご協賛いただき誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

安達 宏史

加藤 政子

セラタ耳鼻咽喉科 院長 **世良田 俊介**
〒703-8203 岡山県岡山市中区国府市場 82-1 TEL(086)275-3287

上西 律子

流水モーメントフォト
作家 **森 修**
福岡県八女市

奈良県宇陀市 **片尾 斎嗣**

農事組合法人 みのりの里講武
代表理事組合長 宮廻 健一
〒690-0804 島根県松江市鹿島町北講武 4-1 TEL/FAX(0852)82-1393

金万商店 井上 正行
〒690-0321 島根県松江市鹿島町武代 224-2 (0852)82-0006

FASHION SPACE きたじま **北島商店**
〒690-0321 島根県松江市鹿島町武代 235-6
TEL(0852)82-0264・FAX(0852)82-2273

後藤勇公認会計士・税理士事務所
〒690-0001 島根県松江市東朝日町 198-15
TEL (0852)60-1360

株式会社 島根建材公社
本社 694-0064島根県大田市大田町大田イ431-7 TEL (0854)82-0860

松陽印刷所
https://www.shoyo-print.co.jp

「ぜんざい発祥の地」
鹿島まちづくり会議
会長 井上 正行
〒690-0333 島根県松江市鹿島町古浦 607 ー 3
（まつえ北商工会内）
TEL (0852)82-2266 FAX(0852)82-1407
http://kashimachou.kankou-matsue.jp/

安来市総合文化ホール アルテピア
ARTEPIA
Yasugi General Culture Hall
安来市総合文化ホール アルテピア
アルテピア

小原 フェアリー **有限会社 フェアリー**
〒980-0803宮城県仙台市青葉区国分町2丁目10-14
エムロード3F TEL(022)262-5908

松江アーバンホテルグループ
MATSUE URBAN HOTEL GROUP
オンラインショップで島根のグルメをおとりよせ

松江神社奉賛会
松江市中原町 19 一般社団法人松江観光協会内
TEL 0852-27-5843/FAX 0852-26-6869

熊野菩提寺山
熊野神社
山陽小野田市真土郷 TEL (0836)84-1138

Kashima Shimane Lions Club
鹿島島根ライオンズクラブ
〒690-0333 島根県松江市鹿島町古浦 607-3 まつえ北商工会内
TEL(0852)82-2266 FAX(0852)82-1407

山は大山、お酒はキンポー
金鳳酒造有限会社
〒692-0056 島根県安来市清井町 343
TEL(0854)27-0111 FAX(0854)27-0112

健康・ダイエット専門 YouTube
Ulysses
モテ痩せチャンネル
ユリシス【東京本院・大阪分院】

鹿島 **有限会社 鹿島タクシー**
タクシー・貸切バス事業
〒690-0332
松江市鹿島町佐陀本郷 621-3
TEL (0852)82-1515 FAX(0852)82-2608
E-mail kashima-tax@celery.ocn.ne.jp

人情派ハイテク企業
合資会社 **いずもWeb**
IzumoWeb Limited Partnership Company
〒693-0002 出雲市今市町北本町 1-1-3 セントラルビル
http://izumoweb.com/

株式会社 さんびる
〒690-0045 島根県松江市乃白町薬師前 3 番地 3
TEL:(0852)26-0335 FAX:(0852)26-0339

授与品各種
芸術の町 笠間より真心をこめて
来栖美商有限会社
〒309-1705
茨城県笠間市東平2丁目12番14号
TEL (0296) 71-9633/FAX (0296) 71-9632

原商グループ
株式会社 ラビット
本社 〒690-0017 島根県松江市西津田2丁目2番15号
TEL : (0852) 31-1074 FAX : (0852) 31-1068
ホームページ URL http://www.rabbit-ltd.co.jp/

ご協賛いただき誠にありがとうございました

（順不同・敬称略）

ご祭神　猿田彦命 天宇受売命
松江市古曾志の氏神様
許曾志神社
〒690-0151 島根県松江市古曾志町八五九番地二

ご祭神　大己貴命ほか二柱
松江市荘の氏神様
彌多仁神社
〒690-0141 島根県松江市荘成町一九四番地

ご祭神　速玉男命
松江市成相寺の氏神様
多藝神社
〒690-0141 島根県松江市荘成町五五四番地一

ご祭神　瓊瓊杵尊ほか六柱
松江市西嶺陀の氏神様
出島神社
〒690-0122 島根県松江市西嶺佐陀町八八一番地

ご祭神　国狭槌尊
松江市薦津町の氏神様
天若宮神社
〒690-0856 島根県松江市薦津町一三六番地

ご祭神　蛭児命ほか三柱
松江市嶺佐田の氏神様
布奈保神社
〒690-0855 島根県松江市嶺佐田町一〇二九番地

片句八幡宮
〒690-0324 島根県松江市 鹿島町片句３４７

日御碕神社
〒690-0332 島根県松江市 鹿島町佐陀本郷１５８５

由來八幡宮
〒690-3207 島根県飯石郡飯南町頓原１６３６

阿　禮
（春日美知）

八重山神社
〒690-2702 島根県雲南市掛合町入間５７

惠曇神社
〒690-0332 島根県松江市 鹿島町佐陀本郷６５５

津上神社
〒690-0323 島根県松江市鹿島町手結６０２

お食事処 勇隆 北島 隆
恵曇 電話 82－1323 82－1125 松江市鹿島町武代228の11

国指定重要無形民俗文化財
大土地神楽保存会神楽方
会長　桐山和弘
島根県出雲市大社町

八上神社
〒690-0321 島根県松江市鹿島町武代 340-1

「快適」に新しい カタチを。

中電工 CHUDENKO 島根統括支社 松江市西津田４丁目８番４７号 TEL.0852-23-2260 www.chudenko.co.jp

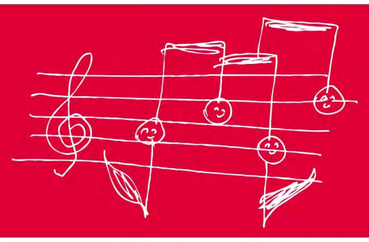
安全・親切・信頼の警備
株式会社 ケイショウ
SECURITY GUARD
代表取締役　浅　津　和　人
松江支社　島根県松江市坂本町２７番地　TEL 0852-34-9100
出雲本社・米子営業所・大田営業所

損保ジャパン日本興亜 代理店
SONPO ひまわり生命 代理店
第一生命　代理店
株式会社 アシストジャパン
〒690-0011 島根県松江市東津田町 373-10　TEL(0852)67-2150

あおやま建硝
青山 信義
〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分 1348-3
TEL(0852)82-2985

Office Communication
株式会社 コニシ
本社　〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1225-39
TEL:0853-22-6578 FAX:0853-23-2856
http://cs-konishi.co.jp/

地域の夢、お客様の夢をかなえる
創造的なベストバンクを目指して



山陰合同銀行

建築用石材設計施工

有限会社 石匠

斐川営業所/〒699-0502 島根県出雲市斐川町荘原2925-3
事務所 TEL (0853)72-6513・FAX 72-6557

不動産の表示に関する調査
登記申請業務・境界確定・測量等

山本和良土地家屋調査士事務所

松江市鹿島町恵曇 424
TEL・FAX(0852)82-0800
E-mail kisuke-2@mable.ne.jp

恵曇名産 冷風乾燥

㊂(有)丸三商店

日本海の幸をお届けします
〒690-0333 島根県松江市鹿島町古浦 602-119
(0852)82-0022
https://ozabumaruko.thebase.in/

松江土建

思い出の形をそのまま。
大切なお住・貴重な建築物を後世へ

株式会社 ソノヤマ

創業明治45年
〒699-0741 島根県出雲市大社町中荒木975-1
TEL:0853-53-5685 / FAX:0853-53-5014
一般社団法人日本曳家協会会員
地盤保証検査協会登録店

株式会社 ヨムラ

〒690-0401島根県松江市島根町加賀1152-3
TEL(0852)85-9055

社寺銅板葺／銅板細工／各種建築板金工事一式

社寺銅板葺

纏屋
和田板金
MATOIYA WADABANKIN
SHAJI DOUBANBUKI

〒683-0853
鳥取県米子市両三柳366
TEL/0859-49-1105
FAX/0859-21-9166
E-mail/surf.one.wan@gmail.com

建設業許可
鳥取県知事 許可(般-29)
第7216号

佐太神社崇敬会だより 神在の社（かみありのやしろ）

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第六号（令和四年九月発行）
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業
ご協賛いただき誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

株式会社 KOU設計

〒739-1732 広島県安佐北区落合南1丁目18番14号

やきとり尾海屋 ひょう迺

〒770-8012徳島県徳島市大原町千代ケ丸73-11

NOHMI

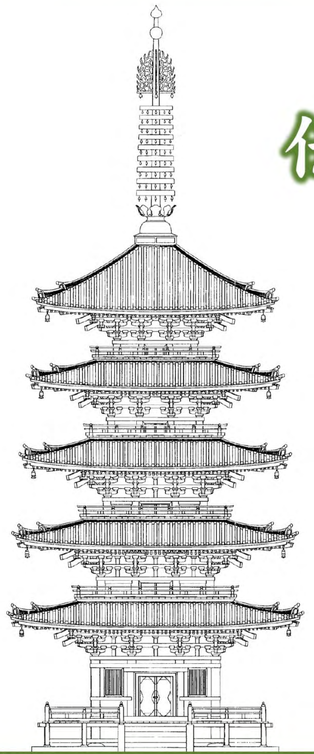
能美防災株式会社

中国支社 〒732-0044 広島市東区矢賀新町4丁目5番26号
TEL (082) 510-1125 FAX(082) 510-1137
https://www.nohmi.co.jp/

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第六号（令和四年九月発行）
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念事業

ご協賛いただき誠にありがとうございました

（順不同・敬称略）



伝統建築技術の継承

日本建築美の追求

文化財建造物修理 神社仏閣建築

株式会社 石原建築

本　社
〒694-0431 島根県大田市祖式町359-1
TEL(0854)85-2355
FAX(0854)85-2425

出雲支店
〒693-0213 島根県出雲市朝山町627-1
TEL(0853)48-9000
FAX(0853)48-9025

社寺の石原　検索

石原社寺建築設計事務所

traditional design produced by ishihara

島根県出雲市朝山町627-1

TEL：0853-48-9000 FAX：0853-48-9025

株式会社テクニカルカンパニー

代表取締役CEO　青山 真将樹
代表取締役社長　松本 和之
〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分1326番地1
TEL:（ 0852 ）82-3911 ／ FAX:（ 0852 ）82-3930
https://www.technicalcompany.jp/

島根日産自動車株式会社

モバイルサイトはこちら

美しい伝統・文化を
未来へつなぐ

EMOTION
SMILE
HUMAN
FUTURE
カナツ技建工業株式会社

〒690-8550 島根県松江市春日町 636 番地　TEL.0852-25-5555 FAX.0852-27-1207
HP https://www.kanatsu.co.jp/

設計から納入まで一貫生産

多様なオーダーに対応するものづくり企業です

Shimane Jidoki Co.,Ltd.

"Only One" で世界に挑戦

当社は、電池、電気・電子部品、自動車部品、医療機器関連部品、などの
生産用設備（FA装置）を開発製造しています。
お客様の仕様に基づく自動機械システムを構想、設計、部品製作、機械組立、
電気制御、調整、納品まで社内で一貫生産しています。

私たちが納入した装置が、日本国内のみならず、世界の生産工場で活躍して
います。

メカトロニスで未来を創造

島根自動機株式会社

〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内784
TEL:(0852)82-0576／FAX:(0852)82-2702
https://www.shimane-jidoki.com/